

ISSN 2758-2515

2021 年度

# 総合知学会誌

Journal of the Society of Multi-Disciplinary Knowledge

Vol 20, 2022

巻頭言 Operating Article

我々が生きる 21 世紀の科学技術文明はこのままで良いのか？ 神出 瑞穂

論文 Papers

1. 提言：「我が国の原子力政策」への『総合知学的アプローチ』  
与志耶劫紀
2. システム思考における目的論理構造と社会倫理 XIII  
— 「意識」について考えること  
荒井 康全
3. 5 つの不平等について  
松田 順
4. 自由について考える  
松田 順

研究ノート Shorter Communications

5. 総合知学会のアイデンティティ(一次) 森田富士男
6. システム思考における目的論構造と社会倫理について XIV  
～L. Ciompi 「システム理論における感情の意義について」～ 荒井 康全
7. 徒然こと「丸い四角は、まるいか」 荒井 康全

書評 Book Review

8. 「権威主義—独裁政治の歴史と変貌」エリカ・フランツ著 (2021 年 1 月) を読んで  
松田 順

その製作物

9. 「理解」するということ 森田 富士男

編集後記

2021 年度活動報告

投稿論文規定

会則

ISSN 2758-2515

2021 年度

総合知学会誌

Journal of the Society of Multi-Disciplinary Knowledge

Vol 20,2021

巻頭言 Operating Article

我々が生きる 21 世紀の科学技術文明はこのままで良いのか？ 神出 瑞穂 2

論文 Papers

3. 提言：「我が国の原子力政策」への『総合知学的アプローチ』  
与志耶劫紀 3
4. システム思考における目的論理構造と社会倫理 XIII  
— 「意識」について考えること  
荒井 康全 42
3. 5 つの不平等について 松田 順 103
4. 自由について考える 松田 順 145

研究ノート Shorter Communications

5. 総合知学会のアイデンティティ(一次) 森田富士男 175
6. システム思考における目的論構造と社会倫理について XIV  
～L. Ciompi 「システム理論における感情の意義について」～ 荒井 康全 194
7. 徒然こと「丸い四角は、まるいか」 荒井 康全 203

書評 Book Review

8. 「権威主義—独裁政治の歴史と変貌」エリカ・フランツ著 (2021 年 1 月) を読んで  
松田 順 219

その製作物

9. 「理解」するということ 森田富士男 PPT1-8

## 巻頭言：「我々が生きる 21 世紀の科学技術文明はこのままで良いのか？」

神出瑞穂（総合知学会 会長）

18 世紀の産業革命以来、300 年続いてきた現代科学技術文明は人間の欲望を科学技術で満たすことを良しとする文明である。

21 世紀を迎える前後に、この文明に対して識者達から疑問が提示された。

日本哲学会会長の沢田允茂氏は“科学技術の総体を無限に拡大し、技術を通じて社会に無制限に適用することが望ましいことなのか？”、物理学者の江崎玲於奈氏は“人類は今後も科学技術に頼らざるを得ないが、果してこのまま進んで利益が実害を上まわり得るか？”と疑問を提示した。

進化論の今西錦司氏は“このまま欲望のおもむくままに文明をつくっていったら、必ず罰があたる。”と警告し、同じく文化勲章受章者の梅原猛氏は“科学と理性は迷信、近代的人間の世界創造神話は滅んだ”、“現代文明は欲望の増大が目的、その無限増大は自然と人間の崩壊、破綻をきたす”、“現代社会を否定する新しい神話が必要”という激烈な遺言を残した。事実、地球温暖化、海洋汚染問題や社会の分断、格差など罰が当たり始めている。

21 世紀に入っても相変わらずインターネット、人工知能、EV、遺伝子操作など自由資本主義と国家資本主義の対立の中、激しい技術開発競争が続いている。宇宙空間まで含めた軍事技術への応用も進んでいるので 20 世紀文明より深刻さは増している。上記の識者達の警告に真正面から答える動きはまだない。SDGs のようにモグラたたきの各論で対応している段階だ。

なぜこれほど科学技術、資源、エネルギー、経済成長が必要なのか？成長がなければ 80 億人の人類は生存出来ないのか？この基本課題が問われている。

J・S・ミルは『経済学原理』（1849 年）で経済成長の行き着く先は定常状態、資本と人口の停止状態である。人は富の増大ではなく労働時間減少を選択、精神文化進歩に熱中する。科学技術成果は万民共通の財産で万民の分け前を改善する手段になるとした。

また J・M・ケインズも『孫達の経済的可能性』（1930 年）の中で 100 年後の 2030 年には人間の歴史上初めて資本を増やさなければならない状態から解放される。技術進歩により人類は物質的に満たされ、又は経済問題から解放ないしはそのメドがたっている。労働は広く薄く分かち合い労働時間は一日三時間になる。貨幣蓄積は下品な行為と見なされ、今を生きる達人が尊敬される社会になるとした。残念ながら 2030 年には実現出来そうもない。

2023 年には総合知学会は 25 周年を迎える。上記識者達の“宿題”に対応した総合知型の提言をまとめたものである。